平成29年度公益信託うつくしま基金助成事業

伝えたいふるさとの宝物

松川町の史跡・文化財等 ガイドマップ

ガイドマップ掲載の史跡・文化財等一覧

地区	番号	史跡・文化財等の名称	地図配置	備考
水原	1	クマガイソウ群生地（鎌倉山）	E－2	全国屈指の自生の群生地
	2	笹森山テレビ塔（南沢）	F－2	福島地区の電波報道の中継となる中継塔
	3	洞雲山泉龍寺（石内）	B－1	隠林寺の最初の末寺
	4	水原神社（石内）	B－1	別称：鎮守鬼諸大神
	5	三島明神（三島）	C－1	加藤一族の氏神
	6	愛宕館跡・愛宕神社（山際）	C－1	加藤全兵衛の居城跡
	7	丸森地蔵堂（寺方）	C－1	丹野家の先祖を供養する地蔵
	8	水原山龍積寺（寺方）	C－1	本酒の了安観音像　二体地蔵尊の　つ
	9	鹿島神社（脇ノ久保）	C－1	水原を一望する境内
	10	仙台内前遺跡（仙台内前）	C－1	福島市最古の縄文遺跡
	11	黒沼神社（宮ノ下）	C－2	二柱の二神体を祀る
	12	関根石塔群（神明山）	C－2	遠路の急な斜面にある石塔群
	13	宇輪台遺跡（右輪台）	C－1	しだれ桜並木と堅穴住居の模型
	14	稲荷神社（上道谷地）	D－1	上道谷地集落跡戸の氏神
	15	八雲神社（上谷地）	D－2	通称天王さま
	16	上不動尊堂（不動前）	D－2	巨石に線刻の三十三観音像
	17	日向山不動院（日向山）	D－2	三体美男の書
	18	風神・雷神神社（熊ノ田）	C－2	二神を祀る
	19	西郷の夫婦桜・狐水稲荷神社（竹ノ内）	C－2	樹齢500年のイタヤカエデの古木
	20	經王山立正院（信夫隠）	D－3	恒例の梵天行列
	21	信夫隠の歌碑、橋供養塔（信夫隠）	D－3	情緒あふれる歌碑と交通の要所
	22	庚申道標（伊藤）	G－3	米沢街道と水原街道の分岐
	23	八丁目城跡（愛宕）	G－4	軍団時代の山城
	24	諏訪神社（諏訪山）	G－4	三つの鳥居（大鳥居、末鳥居の彫刻、諏訪山の桜）
	25	長瀬山常楽寺（水晶沢）	G－4	子安観音と27体の石仏群
	26	諏訪山常光院（諏訪山）	G－4	本山は真言宗室生寺
	27	天龍山優林寺（本町西裡）	G－4	伊達政宗が再建したお寺
	28	唯林山常念寺の石碑（中町）	G－4	巨大な石碑が3体、南無阿弥陀仏の碑
	29	馬頭奈須屋跡（本町）	G－4	昭和45年に川崎市民家園へ移築
	30	稲荷神社（中町）	G－4	境内に明治天皇のご巡幸記念碑
	31	原田山西光寺（町裏）	H－4	木造阿弥陀如来坐像（県指定重要文化財）
	32	めがね橋（天明橋）	H－4	空石積工法による名橋
	33	平舘神（平舘）	H－4	松川三舘の一つ
	34	天満天神宮（八丁目）	H－4	高遠の匠の石工作、大きな雲夜灯
	35	八丁目坂本神社（本町）	G－4	火伏革用の休憩・宿泊所、関札あり
	36	青龍・黒鳥神社（青龍山）	F－5	中風の神様
	37	馬頭観世音菩薩像（石合町）	G－5	三面八臂の光背像
	38	六地蔵道標（石合町）	G－5	奥州街道と相馬街道の分岐点
	39	鞍掛稲荷神社（石合前）	G－6	源義家が鞍を かけたという巨石
	40	仕合館公園・舘跡（土合舘）	H－6	初冠のアジサイ小路
	41	天明石・降石（保土内・降石）	H－5	昔、隕石と思われた二つの石
	42	黄十一面千手観世音菩薩（頃）	D－4	新宿夫三千観音札所
	43	八坂神社（天王原）	C－4	きゅうり天王様

ガイドマップ掲載の史跡・文化財等一覧

地区	番号	史跡・文化財等の名称	地図配置	備考
金谷川（関谷）	44	愛宕勝家地蔵尊堂（高森）	B－2	寄進者名の入った天井絵
	45	薬師堂（高鳥谷）	R－3	弘化7年の薬師如来御堂再興勧化簿
	46	八幡神社（中田）	B－3	本殿裏にある関谷村発祥と言われる岩屋
	47	子安観音（前舘）	B－3	新宿夫三十三観音第22番札所
	48	義民・惣左衛門供養塔（遠下）	B－3	享保の一揆で処刑された義民の供養塔
	49	皇石（かこいもい）（皇石）	B－3	囲に関する伝承巡礼
	50	平佐八幡神社（神ノ前）	B－3	関東出立で唯一の学社本宮の末社
	51	舘橋江観音堂（川向）	B－3	線刻の二十二観音像の石碑
	52	阿弥陀堂（若宮）	A－3	足の悪い旅人が奉納したお礼の石灯籠
	53	八幡神社（若宮）	A－3	参拝後に本殿裏面の彫刻を見るべし
	54	富士浅間神社（神ノ前）	B－3	樹齢300年のイタヤカエデの古木
	55	黒沼神社（木戸前）	A－4	伊達政宗祈願の九殿宮
（浅川）	56	カタクリ群生地（殿）	B－4	約30,000株の群生地
	57	大甘如来の道標（牧取）	A－4	台坐に「右はあいたさ へ左は出沢へ」
	58	鮎滝渡船場跡（船場）	A－5	往時を偲ぶ石畳の小路
	59	荻現太郎神社（後根渕）	A－5	祭神は雷代主神、浅川最古の神社
	60	阿武隈観音歩道（浅川）	A－5	浸食による阿武隈川の奇岩、岩壁
	61	田村荘家地蔵堂（浅川・金沢の両地蔵岡）	A－5	向かい合った二つの地蔵堂
	62	成田山不動尊堂（丸石）	B－3	成田山の分霊
	63	聖観音堂（平石）	B－4	三十三観音像の石仏
	64	松川事件の碑（金子内）	C－4	列車転覆事故、最高裁無罪判決の記念
	65	黒沼神社（宮の前）	B－4	羽山ごもり、十二神楽/重要無形民俗文化財
	66	金澤山永仁寺（明内）	D－4	鎌倉時代の臨済宗の禅寺
	67	黒内観音・黒内遺跡（黒内）	B－4	鎌倉時代の観音の観音
（金沢）	68	鄽方鉄砲組の墓（金沢地内4方所）	B－5	幕末の水戸天狗党の乱で戦死、福島藩の鉄砲組
	69	芳水の桜（深沢）	C－4	池面に映える逆さの桜
	70	水仁の板碑（立石）	C－5	阿弥陀三尊物の梵字、市内最古の板碑
	71	観音堂（十一面観世音菩薩）（川前）	C－5	新宿夫三十三観音第18番札所（別当永仁寺）
	72	鎌守山運良寺（北）	C－5	本山は浅草寺の三井寺である
	73	黒沼神社（北）	C－5	雷は鹿野高大神神と称した
	74	天満宮神堂（日向）	D－5	雷神を祀る
	75	妙見堂（日向）	D－5	馬の育成地
	76	薬師堂（戸ノ内）	D－5	多くの観音石仏
	77	聚雲童子堂（戸ノ内）	D－5	聚雲振興の願いを込めて私財提供
	78	仲笹稲荷神社（佐久間）	D－5	京都伏見稲荷神社の本社
	79	熊野神社・熊野観音（殿治屋山）	D－5	泰鈴の切神
	80	金塚千頭天王（戸ノ内）	D－5	本社は京都八坂の千頭天王社
	81	天満宮碑（越田）	D－5	寺子屋教育にかを注いだ先生
	82	大山不動尊（越田）	D－6	源義家が観音祈願
	83	大神宮碑（越田）	D－6	下川崎を一望する展望台
	84	観音堂（越田）	D－6	苦難から恩恵をもって救われる仏像
	85	松森神社の能澤碑（上ノ内）	E－6	街道と農民の歴史を語る能澤碑
	86	八幡神社（坂ノ下）	E－6	源義家が所を 開いたという桜の古木

福島市役所松川支所・学習センター入口横の案内板

ガイドマップについて

このガイドマップは、福島市役所松川支所・学習センターの門の横に「松川地区史跡・文化財案内板」(上記)が設置されたことに伴い、それら文化財等の解説と場所を案内し、多くの町民及び来訪者の便宜を図るものとして作成しました。案内板に記されている55 所の他に、各地区にある貴重な神社・仏堂・景観等を加え、併せて86 箇所の案内を行うものとなりました。

○一覧表には漢引と共に、一言の特徴等を記載し、楽しめるものにしました。

○水原・松川・金谷川・下川崎の順に番号をつけました。

○地図には、上下両横に記号番号を付けて対象施設を探し易くしました。

○全て会員が現地を調査・取材し、写真等の撮影を行い、解説文を記しています。

来神社・仏堂等によっては、参道や周囲が荒れている場所もあります。行動しやすい服装や靴を履いて歩行・見学をしてください。

◇参考文献等◇

下記に記した書籍のほか多くの書籍文献を参考にしました。

○松川町之文化財　○八丁目宿　○松川の伝承と方言　○ふるさと探訪　○心の文化財

○金澤のむらの誌　○小学校の 100 周年記念誌等（各地区）　○福島市総合計画後期基本計画　ほか

作成：松川町文化財保存会

協賛：松川町観光協会／松川商工会／松川町商工会青年部／福島松川ライオンズクラブ

協力：松川まちづくり委員会 21／金谷川活性化委員会 21／活性化集団本原 21／下川崎地区町会長会

福島・松川八丁目宿婦町（FACE TO FACEコミュニケーション）交流企画実行委員会

協力：福島市教育委員会

「松川再発見」気になる場所を巡ってみよう！

松川町の概要

貼湯の渡しから見上げる上蓮華橋

地元産のそば粉で打つ藤八手そば

松川町は、福島市南端の丘陵地にあり、西には笹森山など700メートル前後の山が連なり、その麓から水原川が町の中央を東西に流れ阿武隈川に注いでいます。交通は、国道4号、東北縦貫自動車道、そしてJR東北本線が南北に縦断し、松川駅、金谷川駅、松川スマートICが交通の拠点となっています。

■豊かな自然と花咲く町

4月はカタクリの花が開くと、すぐに金沢の芳水の桜、観振福岡のしだれ桜、諏訪山の桜、西裡の夫婦桜、石輪台のしだれ桜並木と松川の町中が桜の花であふれます。下川崎の弥勒内沼の桜もあり、また美鄽団地では団地の斜面いっぱいに咲き誇り、下の道路はまさに花の道となります。

5月は水原のクマガイソウの里まつり、7月は土合館公園のあじさい小路と続き、あじさい小路では「松川と花の案内人」が松川の歴史と花の案内の活動をしています。

県指定名勝及び天然記念物の河武渓峡、市指定の保存樹、水原川沿いに広がる田園風景、めがね橋の雪景色など、四季を通して美しい自然に囲まれています。

■歴史と伝統行事

市内発古のむら跡といわれる仙台内前遺跡をはじめとする多くの縄文遺跡、戦国時代の城跡「八丁目城跡」、江戸時代に発展した奥州街道の主要な宿場町「八丁目宿」、それらに関連する多くの史跡・神社仏閣などが松川の歴史を感じさせてくれます。

そして東部五町と八町連合の併せて13台の提灯山車が練り歩く松川提灯祭りや、金沢の黒沼神社で行われている国指定重要無形民俗文化財の羽山ごもり、県指定の十二神楽などの伝統行事があります。

西光寺には県指定重要文化財「木造阿弥陀如来坐像」が本尊として安置されております。

■まちおこしイベント

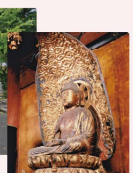
宿縁町交流フェスティバル、ルーラル・ジョイントコンサート、クマガイソウの里祭り、あじさい小路、新そば祭り、にんじん祭り（収穫感謝祭）など地域を活性化するイベントが各地で行われています。

土合館公園のアジサイ

松川提灯祭り

31 原田山西光寺

町裏　H－4


県指定重要文化財　木造阿弥陀如来坐像（写真・西光寺提供）

天明大鉦鼓の収骨堂

当山は往古には宿地にあったと言われているが、草創については詳らかでない。現在の地に移るのは、16 世紀鈔運家 14 代鎮京が八丁目城を築き、城下町が成立したときと思われる。

江戸時代に入り、正保年間（1644 ～ 1647）に火災に遭うも實清法印が再興し、現城を整える。

本堂には、本尊木造阿弥陀如来坐像（県指定重要文化財）を安置する。宝暦 10 年（1760）奈良東大寺より当山に迎えられたもので、平安時代末期に作られた漆箔づくりの美しい木像である。

他に、十一面観音像（鎌倉時代）、小薬師土像（元禄時代）等を祀る。現在には、西風の句碑、八丁目文化を代表する加藤紫明の句碑、天明の大鉦鼓の際の鐘を蹲ったという収骨塚、江戸時代後期の行司式示藤七の墓、馬頭観音像、庚申塔など、多くの古碑がある。

65 黒沼神社（金沢）

宮ノ前　B－4

■ 羽山ごもり
国指定重要無形民俗文化財
■ 十二神楽
県指定重要無形民俗文化財

羽山ごもり（ヨイサア）

祭礼に奉納する十二神楽

黒沼神社は県でも数少ない延喜式内社で、倭武命（ヤマトタケルノミコト）と浮中倉太玉数命（メナカクラフトタマシキノミコト）を祭神として祀る。治安３年（1023）に月縄より現在地に遷座する。明治維新後、村社に列せられたが、鎮社への昇格を要望し、明治 29 年に郷社となった。祭礼は明治の大祭統一により４月３日（現在は４月の第一土日）になった。

羽山ごもりの神事は、金沢村を開拓した先人たちが観穀守宮に植えるため、羽山僕仔を取り入れたもので、旧暦の 11 月 16 日から18日までの３日間行われている。村の男子が別火と水垢離を取って籠り家にこもり、羽山の山上で翌年１年のご託宣を受けるものである。

昭和 55 年に国の重要無形民俗文化財に指定された。

十二神楽は、祭礼の２日目に奉納されているが、元和３年（1617）に村人を江戸へ派遣し、修得して祭礼に奉納したことが起りとされ、現在まで連綿と保存伝承されている。昭和 55 年に県の重要無形民俗文化財に指定された。

1 クマガイソウ群生地

鎌倉山　E－2

狼ヶ森のバス停から笹平方面に 1,5 k m程進むとクマガイソウ自生地への入口に着く。広い駐車場がある。クマガイソウはラン科の多年草で観賞価値の高い野草のために園芸用に採取され自生地が激減している。環境省の絶滅危惧Ⅰ類。福島県はさらに強い絶滅危惧Ⅰ類に指定している。広く群生する自生地としては、水原を含め全国でわずかしか確認されなくなった。

地元では、水原のクマガイソウを守るため「水原の自然を守る会」を設立し、「クマガイソウの里祭り」を開催して祭りの期間中だけ一般公開をしている。

2 笹森山テレビ塔

南沢　F－2

笹森山は標高 649,9m、松川で最も高い山である。昭和 33 年（1958）にＮＨＫのテレビ中継所建設のため自衛隊によって約 5 k m の笹森山道路が造られ、翌昭和 34 年（1959）に建設されたＮＨＫをはじめ、今では民放のテレビアンテナが林立している。

三角点は、北西のＮＴＴのパラボラアンテナのある山頂。さらにその北の 621m の山頂は羽山と呼ばれ、弘化２年（1845）と記された石の碑があり、かつて東北の各地にみられた羽山信仰の名残りがある。

3 洞雲山泉龍寺

石内　B－1

本尊は釈迦牟尼仏、菩洞宗の寺院である。石内の高所により、山門と六角二階の鐘楼が眺望している。本山は福井県の永平寺。当寺は弘治 3 年（1557）当地の愛宕館の城主、加藤金兵衛之群基樹が、山際地内に七千坪に及ぶ広大な境内を設けて「一藩禅泉龍寺」を創立した。郡下の兵士や住民の菩を慰めるため、小田の藩林寺第三世観南照禅和尚を拝請して建立したものである。当寺第三世の代、台風により堂塔伽藍が倒壊したが、宝永 2 年（1705）現在の石内地内に再建された。

4 水原神社

石内　B－1

長い石段を昇ると真新しい社殿がある。東日本大震災により石灯篭が倒壊し、翌年強風により社殿が倒壊したが、氏子により建て替えられた。天社鬱資命（オオヒルムチノミコト、天照大神の別名）を祀る。建立は永正（1504 ～ 1521）の頃に遡るとされる。加藤金兵衛が水原村の山際に居館を構えて領主となったが、神社は屋敷から北と東の間（比東の方角）、いわゆる鬼門にあたるので石祠殿（水源神社）に修験東光院法院（僧侶）を迎えて「鎮守鬼諸大明神」と改め、伐木田として宮田地内の土地三反三畝を寄進した。神社は明治 2 年（1869）に水原神社と改名された。地祖改正により宮田の字は石内に改められた。

5 三島明神

三島　C－1

三島明神は水原字三島の竹林にあり、三島地区の加藤家七軒の氏神として祀られている。

建立は古く天文（1532～1555）の代に遡るもので、当地開墾に偉功のあった加藤金兵衛の子孫であったと伝えられている。御神体は古く伊予大三島明神より受けたものと言われており、木彫で尺余りの袖付きの立像である。尚、大山祇神（オオヤマツミノミコト）と鎮荷様が合祀されている。

また、昭和 36 年に社殿を改築した際、中から白蛇が現れて驚いたが、以前から白蛇の絵馬が多く、この三島明神には守りの白蛇がいると噂されていた。

6 愛宕館跡・愛宕神社

山際　C－1

愛宕館は、水原川西側の山地に延びた丘陵に位置し、東西 650m、南北 200m の規模を有する壁である。永禄年間（1558～1570）に築城された加藤金兵衛の居城と伝えられる。

十六間ぬりの四側一帯が郡の土塁で、最も保存状態が良好である。石垣山頂の主郭を中心とした郭城をこの字状に横張を配し、東側に土塁が設けられている。この現存する空堀の規模は大きく、高低差が 10mほどある。主郭がある場所には愛宕神社が祀られている。加藤金兵衛の嫡孫を継ぐ、地元有志が明和６年（1769）に建立したもので、鎌倉愛宕命（カグツチノミコト、火の神）を祀っている。現在、周囲は竹林となっている。

7 丸森地蔵堂

寺方　C－1

水原の寺方地内にあり、本地区の旧家丹野家の守り地蔵と言われ、延命地蔵堂が安置されている。丹野家とは縁も深く、同家の内寄である職機寺は、昔、此処にあったという。

金入道内の丹野家は、当地きっての旧家で広大な邸宅内には樹巧な造りの観音堂と地蔵堂が建てられている。

この周辺は、水原文化の発祥の地と目され、近くには宇輪台遺跡や日向遺内遺跡があり、周辺には大日如来堂や熊野神社が祀られている。

8 水原山龍積寺

寺方　C－1

本尊は聖観世音菩薩。総本山は長谷寺。創立及び開基等は不詳であるが、現存する過去帳及び開基棟札の墓石に「元和元年正月二日又一」（1615）とあることから、それ以前の開創と推定される。戦時中に供出した梵鐘には「宝暦十年法印覚満」（1760）の銘があり、本堂修理時には「天文５年真言僧」（1806）と記載されている。

また、以前は字丸森にあり、旧丹野家の内寄であったが解放され、下（しも）の寺として奥精寺と並ぶ水原地区の寺院である。本堂に祀られている木造の延命地蔵菩薩（子安地蔵）は、厚木市にある子谷（こあい）地蔵と同じ日本三体地蔵尊の一つと言われ、子合地蔵と鎌の袈い寺自体開祭の専解地蔵とよく似ていることからその分霊として開眼法要を行ったものである。

9 鹿島神社

脇ノ久保　C－1

水原字脇ノ久保の高台により、武甕槌命（タケミカヅチノミコト）を祀る。御神体は鏡である。本宮は字鹿島前の杉林の中にある。明治 2 年（1869）新宮として分祠された。水原神社とともに昇格して村社となった。道路から百段あまりの長い石段を登ると広い境内にたどり着き、そこから水原の東部を一望できる。神殿は土蔵作りで拝殿が備えられている。東日本大震災で基礎部分の石積が壊れたがすぐに修復された。

10 仙台内前遺跡

仙台内前　C－1

仙台内前遺跡は、水原小学校の南約 600m に位置する。昭和 62 年（1988）の発掘調査で、縄文時代草創期の竪穴住居 1 棟と平安時代の竪穴住居 1 棟、縄文時代、中世、近世の土坑などが見つかった。また、縄文時代草創期の石器を製作したあとも見つかっている。縄文時代草創期の竪穴住居は福島市内でほぼ唯一のもので、年代測定により約 10,000 年前に使われたと考えられている。住居跡は 4×3.2m の大きさで、火をたいた跡は見つかっていない。写真の住宅の前に広がる掠が仙台内前遺跡である。

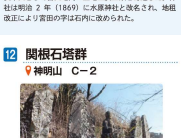
11 黒沼神社

宮ノ下　C－2

上蓮華道旧道の宮ノ下地区の石段を昇りつめた丘陵に鎮座する。本殿前拝殿金（コノハナノサクヤヒメノミコト）を祭神として祀っている。御神額には神明社・黒沼神社と併記されている。創建の年代は不詳であるが、晋江神明山の中腹にあったが土地所有者が変わったため、この地に遷座した。石段の左右、境内には僅かに少多くの石塔が立てられている。石段、社殿の周囲は宮ノ下花の里公園として手入れされている。境内からは水原地区が一望できる。

12 関根石塔群

神明山　C－2



関根の神明山にある。かつては上蓮華路沿いにあったが、道路改修により高所に移された。

大小無数の石塔があり、その主なものは、宝暦 12 年（1702）や南無阿弥陀仏、大願 11 年（1828）や天照皇太神、地蔵尊（年部不明）、明和改元（1764）の事納方善供養及び事納百善供養、文久元年（1861）の蒲鉾山等があり、他に小塔が多く建てられている。中に蓮華座の寄寺大の地蔵があり、これは怪僧木食（もくじき）上人に かかわる伝承があるらしい。

この南西一帯は神明神社の跡でもあったと観察し、「神明ろくじ」として荷来の公園化を目指している。ここからは吾妻小富士をバックに水原地区が一望できる。

13 宇輪台遺跡

右輪台　C－1

宇輪台遺跡はこれまでに 2 度の発掘調査が行われている。調査の結果、約 5,500 年前の縄文時代前期と約 4,000 年前の縄文時代中期にムラが営まれていた事が分かった。ムラは日当たりのよい南斜面で広陵頂上付近の平らなところで見つかった。

約 5,500 年前の縄文時代前期の竪穴住居は長さ 4 m、幅 3m と、長さ 10m、幅 4m の 2 種類が見つかっている。約 4000 年前の縄文時代中期のムラは 9 棟の竪穴住居と獣の落とし穴が見つかっている。

現在は、遺跡内の道路にしだれ桜を植栽し、「右輪台のしだれ桜並木」として整備されている。

14 稲荷神社

上道谷地　D－1

遺跡から 20mほど杉木立の中を進むと「鳶神」の麓のかかった鳥居が見えてくる。さらに 30m先に社殿が現れる。祭神は倉稲魂命（ウガノミタマノミコト）。由緒、鎮座年月等は不詳であるが、上道谷地屋敷の氏子により祭礼が行なわれてきた。

社殿の周りの石仏には宝暦 12 年（1762）と記載されている石仏も見られる。

また、近くには中道谷地屋敷の稲荷神社があり、稲荷百度申など多くの碑が見られる。

15 八雲神社

上谷地　D－2

関根の石塔群から南へ水原川を渡り 500 m ほど進むと高台に八雲神社が見えてくる。

祭神は素戔嗚尊（スサノオノミコト）。他に、八雲大神（ヤクモノオオカミ）と熱田大神（アツタノオオカミ）の 2 神を祀ってある。別名「天王様」とも呼ばれている。

祭りは旧暦 3 月 13 日に氏子により行われている。

また、近くには中道谷地屋敷の稲荷神社があり、稲荷百度申など多くの碑が見られる。

16 上不動尊堂

不動前　D－2

水原地区の南端、静かな山里の岩山の一角にある。不動明王を祀り、堂の周囲にある岩壁には石仏が三十三観音は有名である。

建立年号は不明であるが、元和 3 年（1617）修復と記されており、江戸時代初期まで遡ると思われる。

三十三観音は岩壁に掘られ、風化して磨滅も定かでないが、近年、線刻の岩の横に番号を刻したプレートが立てられ、参詳者に喜ばれている。

17 日向山不動院

日向山　D－2

総本山は京都の護城寺で本尊は不動明王（五大明王、八大明王の主尊ゆ）である。天台宗の寺院。開闢天皇の時代、延喜 21 年（921）日向山に鎮護されたと伝えられている。

天慶 5 年（1057）源頼義（八幡太郎義家の父）が陸奥守として陸奥の安倍頼時、貞任追討の際、日向山の ご本尊に祈願を祈願し、その加護により賊を平定することができた。頼義はその霊験的たかなる仏としてこれを崇め敬り、浄財を寄進して日向山不動院を建立した。それ以来現在に至るまで沢尾の横保寺の人々は開 義公開山の不動院として信仰心が厚く、尊崇している。

本堂の入口に掲げてある「不動院」の額板は、三条実美の書であり、原本が大切に保管されている。

18 風神・雷神神社

熊ノ田　C－2

松川西部に位置する熊ノ田集落の喜山（熊ノ田山）の頂上付近に珍しい雷神、風神を祀る神社がある。間口二間（3.6m）、奥行三間（5.4m）の木造で、瓦ノ田・仲ノ内集落旧家だけで講中をつくり、当番制で管理運営している。22 軒あった講員は現在では 14 軒になった。

昔から、農民信仰の中で、雷と強風による被害が一番恐らしく、雷神・風神を祀ることにより被害に遭わないように祈願したものである。春の強風と、夏の雷の発生する時期二回、台風の発生する夏の終わりに「伝統」に従って祭りを行っている。

19 西郷の夫婦桜・狐水稲荷神社

竹之内　C－2

夫婦桜のうち「本法」、天正年間（1573～1592）に伊達政宗より桜の苗木を頂いて狐水稲荷神社に植えられたものと伝えられてきた。近年、地元の夫婦会や守る会が樹木医に調査査定してもらったところ、推定樹齢が 750～800 年と診断された。○のしと から○の桜は 189 年建築時が美州区役の折に保地寺軒の大集落を通過した際、集落の北西の地に鎮座する「狐水稲荷神社」にその成果報告と共に対する礼を述べ、神社境内の南に「しだれ桜」を女、北に「えどひがん桜」を男の夫婦に見立てて植えられたという言い伝えが夫婦桜の由縁です。と言われ伝えられている。

なお、狐水稲荷神社の由緒、動臨年月は不明であるが倉稲魂命（ウガノミタマノミコト）を祀り、八丁目三稲荷の一つとして保心されている。

20 經王山立正院

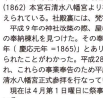
信夫隠　D－3

新馬鹿赤坂山中で恒日日の荒行を体験した日蓮上人（矢吹堂堂）は昭和4年（1929）この地にたどりついた。

そして昭和６年法華講連盟を開設して法華宗の寺院となる。昭和 21 年８月には寺号を立正院と改称。当寺は法華守護の鬼子母神神を祀ることから参詣者からは「梁川のさしもじん」と崇められている。昭和59年４月に現在の未堂の落成大法堂が行なわれ、その年に再開された梵況行列は、毎年４月 29 日に行なわれ、町内のまずや旅館から約 1.7 キロの道のりを一度も雨に降られることなく現在まで続いているという。

21 信夫隠の歌碑・橋供養塔

◆信夫隠　D－3



旧奥州街道を勾配（安達峠）から下って福川（安達と信夫の境の川）を渡り八丁目となる。地形の関係で信夫の里が見えなくなることから、この辺を信夫隠と呼んでいる。万葉集巻の歌碑があり、これを「信夫隠の碑」という。傍には次のような説文（要）が記されている。

「恋しやの　心黒を　浅らさと　信夫隠は　袖や映かり　夢ぢこそ　(1866) 河東碧之」

また、力ツ口ニ本名段の塊であり上終戦には国語所があった。組織上重要な鉱石、永久機を作ることが許されず、木機は後（後ければ落ちたりして難産していた。文化年間（1804-18世）にこの永久機が誤ぼ下ろれ、重人巳地区民によって建立されたのが「橋供養塔」である。

信夫隠の碑、橋供養塔とも旧奥州街道沿いにあり、現在は緑地整備により立冠の場内地に移転されている。

22 庚申道標

◆伊勝　G－3

この道標は、松川町字伊藤に設置されている。高さは 1.2m 位で、元の場所は現在の星用促進住宅の西側の旧木沢街道の端角にあったが、昭和六十年頃に住進住宅建設の際に行方不明となり、ようやく見つけて旧木沢街道の道端の現在の場所に移した経緯がある。文字は「右大もりをつつゆ道」と刻まれ、「宝暦十二年（1762）」の銘がある。八丁目城下の交通の要所であった伊勝を控えた道標の一つである。

23 八丁目城跡

◆愛宕　G－4

松川町字愛宕により伊達政宗の曾祖父頼宗によって築城された。標高 250m の頂上に縦 30間、横 20間の平頂と 5 箇所の空堀、7 段の段郭など、山城としての形状が残っている。八丁目城は、天文11年（1542）に始まった伊達稙宗、晴宗父子間の戦いである「天文の乱」において戦略となった。最後の城主は、政宗の弟父晴宗の次男元宗、天正15年（1587）4月16日にこの城で死去した。政宗は義弟の4月7日に見舞いに訪れている。

天正18年（1590）豊臣秀吉の重臣浅野長政は、秀吉の命令を受け、この八丁目城よりも見所に検地を受ける。八丁目城は秀吉の軍師竹中の山城跡として、繁城当時の姿を現在の八丁目城跡として貴重な遺産である。

24 諏訪神社

◆諏訪山　G－4

動踊の当初は北諏訪郡に鎮座してあったとされ、軍保の初頃、現在地に遷座している。諏訪名方命（タミナカタノミノミコト）を祀る。江戸時代に未町の火で焼失し、現在の社殿は その後の建立であるが、本殿正面や同側の壁の彫刻、登り縁と下り縁を配した脇障子の彫刻は幕の末日を生かした傑作である。

明治 12 年に村社に列格されている。参道にある大鳥居には、信州高遠の石工の名が刻んでいるため、、、